



あらい かずしげ

病院長 新井 一成

昭和大学江東豊洲病院は江東区豊洲4丁目から豊洲5丁目1-38に新築移転して、平成26年3月24日に開院しました。昭和大学附属豊洲病院の30年余に亘って地域に密着した医療を踏まえることは素より、診療科の拡充ならびに病床数も段階的に414床まで増床して、大きく発展・変貌する地域の要望にも応えられる体制を構築しています。

当院の理念として、①まごころの医療、②安全・安心の医療、③地域と連携する医療、④医療人の育成を掲げております。また、理念を実現させるための具体的な基本方針として、女性と子供にやさしい病院をめざし、チーム医療を実践し、安全・安心な医療を最優先し、地域連携を充実させ地域の発展に貢献し、そして新しい医療文化を創造する決意でおります。



当院は高度で先進的医療を提供する急性期病院の役割を担い、小児医療、周産期医療、二次救急医療を充実させ、さらに災害拠点病院として対応できるように整備しています。

新築移転に伴い、重篤な疾患を中心に診断・治療に当たるといふ当院に課せられた職務を果たすには地域医療連携は最重要課題となります。その一環として、初めて当院を受診される方はかかりつけ医からの紹介状を持参されますようお願いいたします。なお、紹介状がない場合は、初診にかかわる費用として選定療養費（通常の医療費とは別の自己負担）が発生いたしますので、ご理解を頂きたいと存じます。

開院に際しまして、地域に貢献するためのいくつかの目玉を用意しております。その1つに土曜、日曜、祝日にかかわらず休診せずに診療を行いますので（ただし年末年始と11月15日の昭和大学創立記念日は休診となります）、上手にご活用を頂きたいと思っております。当院への期待・役割は変遷するものと捉え、日常の診療に対して真摯に取り組み、学び続け、成長していきたいと考えております。



昭和大学江東豊洲病院

第1号のトピックス

- 病院長挨拶
- 診療科紹介
 - 消化器センター
- 部門紹介
 - 患者サポートセンター

◆診療科紹介 消化器センター 消化器センター准教授 横山登

消化器センターは江東区の地域はもとより、全国・海外からの患者さんの診断と治療にあたります。当センターの特長は次の通りです。

「消化器早期がんの拾い上げと低侵襲治療」

わが国の消化器早期がんの診断と治療は、先達の努力により、まぎれもなく世界のトップを走っております。この成果の一旦は、消化器内視鏡メーカーとの産学共同研究のたまものであり、メーカーの世界シェアは95%を超えています。例えば、消化管早期がんを見落とすことなく発見しようと思えば、High Visionと拡大内視鏡が組み合わされた最新の内視鏡機器が重要となります。



昭和大学江東豊洲病院・消化器センターは最先端の内視鏡診断と治療を実現できる器械と医療スタッフを有しています。

私たちは、世界最大の内視鏡メーカーの最新の内視鏡機器を導入することにより、早期がんを拾い上げれば、外科の手術ではなく、低侵襲の内視鏡治療を可能としております。昭和大学江東豊洲病院・消化器センターは、そのような最先端の内視鏡診断と治療を実現できる器械と、医療スタッフを有しています。



消化器センタースタッフ 一同

内科外科の合同 受け持ちチーム制

消化器センターでは従来は内科・外科に分かれていた受け持ちチームを一体化して、「内科医・外科医の合同受け持ちチーム」を実現しました。これまで、私自身、内視鏡治療や手術のため、国内外、とくに欧米の有名病院に数多く訪問する機会がありましたが、この合同チームは日本初、世界初だろうと思っております。この体制により、内科治療、外科治療の粋を集めて、患者さんに最適な治療が提供できるものと自負しています。



手術室

「無痛を超え、“快適”な検査・治療を目指して！」

患者さんの立場からすれば、病院は「痛い・怖い」という負のイメージをお持ちかと思われます。私たちは麻酔科との協力により、無痛であることを超えて、快適な検査・治療を目指しております。

「高度な手術を可能とする最先端の内視鏡外科手術室」

消化器癌の治療においても、腹腔鏡、胸腔鏡を駆使して、低侵襲手術を展開しております。とくに、消化管癌の手術においては、これまでの腹腔鏡・胸腔鏡（2D:平面画像）ではなく、最新の3D（立体構築画像）が標準装備されております。3Dの立体画像を用いることで、さらに精密な手術を行うことが可能となります。

さらに各手術室に消化器内視鏡を常備して、手術時に消化器内視鏡を併用した最先端の低侵襲手術が常時行えるようにしました。つまり、1つの手術室の中に内視鏡外科器械と消化器内視鏡器械を常備して、それらをコンピューターで統合した手術室を実現し、外科医・内視鏡医が協力して高度の手術を行える環境が整っております。

もちろん医療スタッフにおいても、難易度の高いとされる消化器外科手術に習熟した消化器外科専門医・内視鏡外科専門医が多数集結しております。

さらに詳しくは

江東豊洲 消化器センター

検索



◆部門紹介 患者サポートセンター センター長 上條由美

昭和大学江東豊洲病院は、江東区南部地域の急性期病院としての役割を担って新たに開院いたしました。急性期病院では入院から退院までの期間が短く、患者さんにとってはわからないことや不安があることもあります。そこで当院では、患者さんが安心して医療が受けられるように、患者サポートセンターを設置いたしました。当センターには大きく3つの役割があります。

第一に、「入院・退院サポート業務」として、入院に必要な準備を説明すると同時に、患者さんの状態を入院前に把握します。入院前から患者さんの抱える身体的・精神的・経済的な不安を把握して、スムーズな療養生活と退院に結び付けることを目的としています。入院後は、患者さんの状態により、転院先や地域の医療機関を紹介する準備をします。当院は、地域医療機関の皆さまとの連携により、紹介・逆紹介を通じた「地域完結型医療」も推進しています。

第二に、「総合相談業務」として医療福祉相談、総合相談を行います。

第三に、「検査説明」として、外来や入院で行う検査の内容や注意点を説明し、安全に検査が受けられるようにサポートします。



患者サポートセンターは多職種によるチーム医療を実践しています。ご説明、ご相談の内容に応じて、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、医事課職員等の専門スタッフで対応させていただきます。当院の理念でもある、まごころのこもった医療を提供できるように、スタッフ一同努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

以下のような相談をお受けします。

- ◎ 診療のこと ◎ 医薬品のこと
- ◎ 食事のこと ◎ 医療安全に関すること
- ◎ 医療費・生活費に困っている
- ◎ 使える制度について知りたい
- ◎ 受診していて困っていること
- ◎ どこへ相談したらいいか不明なこと

はせがわ まこと

編集後記 放射線診断科 長谷川 真

あわただしい開院後の一か月があっという間に過ぎ去り、気が付けばゴールデンウィークとなりました。そんな中、江東豊洲病院の広報誌第一号ができました。今後、順次各診療科の紹介記事を掲載する予定です。紙媒体だけでなく、ネット上でも情報発信を続けますので、有用な広報活動ができますよう、今後とも皆さまのご指導ご協力を宜しく願いいたします。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
 〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38
 TEL03-6204-6000 (代表)
 発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

